

L-Arginineの不妊治療における効果

L-Arginineの服用量と副作用

1日2～6カプセル※（1,400～4,200mg）を2～3回に分けて食事と一緒に服用してください。※服用量は医師の指示に従ってください。
※1日の摂取上限は15,000～21,000mg程度といわれています。

L-Arginineは医薬品との相互作用が確認されています。下記医薬品を服用中の方は医師にご相談ください。

- ・ニトログリセリン、イソソルヒドなど心臓への血流を増大させる医薬品との併用はめまいや立ちくらみを起こす場合があります。
- ・高血圧治療薬と併用すると血圧が下がりすぎる場合があります。

L-Arginineの効果

成長ホルモンの分泌促進効果

成長ホルモンは体の成長を促進したり若さを保つために働くホルモンで、10代をピークに減少し40代で約半分、80代では20分の1に減少してしまいます。成長ホルモンの分泌を抑制するソマトスタチンの働きをL-Arginineは阻害するため、成長ホルモンの分泌が盛んになり全身の代謝の促進、体の様々な機能を若返らせる効果が期待できます。

血管拡張作用

L-Arginineから合成される一酸化窒素（NO）には血管拡張作用があり、子宮内の血流量を増やす効果が期待できます。また男性のED治療などにも効果が発表されています。

妊娠しにくい女性の妊娠促進効果

Adjuvant L-arginine treatment for in-vitro fertilization in poor responder patients.

体外受精、妊娠しにくい等の不妊治療中の患者34名を2グループに分け、一方(17名)に従来の方法を、他方(17名)に従来の方法に加えアルギニン（16,000g/日）を摂取させた。結果アルギニン摂取グループでは卵母細胞および胚の増加が見られうち3名の妊娠が認められた。一方、従来の方法のグループには妊娠は認められなかった。また、アルギニンによる副作用は見られなかった。

Hum Reprod. 1999 Jul;14(7):1690-7.

子宮内膜発育不全症例に対するL-アルギニンの効果

子宮内膜発育不全症例（子宮内膜厚8mm未満）の内、子宮放射状動脈RI高値を認める9症例を対象とした。L-アルギニン（12g/日）を投与し、非投与周期と比較検討した。結果、L-アルギニン投与により子宮放射状動脈RI値は有意に低下した。子宮内膜厚は統計学的に有意差は認めないものの増加傾向を認めた。有効率は子宮放射状動脈RI値が9症例中8例（88.9%）で、子宮内膜厚は9症例中5例（55.6%）で改善した。また、投与期間中1例で妊娠を認めた。L-アルギニンは子宮内膜血流を改善させ子宮内膜発育不全症例に対し有効な治療法となる可能性があると思われた。

日生殖医学会誌 51巻1・2号 済生会下関総合病院産婦人科

男性不妊症へのアルギニンの効果

精子数・精子運動性増加作用

男性不妊症の患者にアルギニン（～4,000mg/日）を摂取させたところ、治療し患者のうち半数以上に精子数の増加が見られ、28%に妊娠が認められた。（J. Urol., 1973; 110: 311-313）

アルギニンは精子の運動性に重要な働きをするポリアミンの生成を増加することによって精子の運動性を高めるということを提案した。（Ginecol. Y. Obstet. de Mexico, 1993; 61: 229-234）

精子の運動性が30%以下であった患者（25例）に対してアルギニンを2,000mg/日摂取させたところ、21例に運動性の改善がみられ、6例に自然妊娠が確認された。

（第48回日本不妊学会 浜松医科大学発表）

Pure Encapsulations社は、
全米医療用ベストサプリメント賞受賞



- ・原料からこだわった最高品質のサプリメント
- ・添加物や防腐剤等を含まない、安全で低刺激な製品